

研究・研修報告書



令和4年10月26日

小牧市議会議長 様

会派名 無会派  
代表者氏名 野々川嘉則

研究・研修の結果を報告します。

記

1 参加議員

野々川 嘉則

2 日程

令和4年10月13日（木）～ 令和4年10月14日（金）

3 研究・研修名

第84回全国都市問題会議

個性を活かして 「選ばれる」まちづくり  
～何度も訪れたい場所になるために～

4 主催者

全国市長会、後藤・安田記念東京都市研究所、日本都市センター  
長崎市

5 会場

出島メッセ長崎

6 受講の目的

全国代表市の取組みを聴講することで、小牧市への取組みの参考にする。

7 主な内容

10月13日（木）（1日目）

（1）開会式

開会挨拶（全国市長会会長 福島県相馬市長 立谷秀清氏）

開催市市長挨拶（長崎県長崎市長 田上富久氏）

来賓祝辞（長崎県知事 大石健吾氏（代理））

(2) 基調講演

「民間主導の地域創世の重要性」

(株)ジャパネットホールディングス代表取締役社長兼CEO

高田旭人氏

(3) 主報告

「長崎市の魅力あるまちづくり」

長崎県長崎市長

田上富久氏

(4) 一般報告

「地域との新しい関わり方・関係人口」

島根県立大学地域政策学部准教授

田中輝美氏

(5) 一般報告

「ビジョンを活かしたまちづくり

～「選ばれる山形市」を目指して～」

山形県山形市長

佐藤孝弘氏

(6) 一般報告

「交流の産業化」を支える景観まちづくり

～長崎市景観専門監の取り組み～

一般社団法人地域力創造デザインセンター代表理事

高尾忠志氏

10月14日(金)(2日目)

(1) パネルディスカッション

【テーマ】個性を活かして「選ばれる」まちづくり

～何度も訪れたい場所になるために～

【コーディネータ】

東京都立大学法学部教授

大杉 覚氏

【パネリスト】

ゆとり研究所所長

野口智子氏

山梨大学生命環境学部教授

田中 敦氏

NPO法人長崎コンプラドール理事長

桐野耕一氏

岐阜県飛騨市長

都竹淳也氏

兵庫県伊丹市長

藤原保幸氏

(2) 閉会式

次期開催市市長挨拶

青森県八戸市長

熊谷雄一氏

## 閉会挨拶

公益財団法人後藤・安田記念東京都市研究所理事長

小早川光郎氏

### 8 所感・提言・課題等

- (1) 高田氏の基調講演において、長崎の人口動向や長崎の強みなどを分析し、企業として長崎市内の工場跡地を買い取り、長崎スタジアムプロジェクトを企画・実行している。スタジアム、ホテル、商業エリア、アリーナ及びオフィスからなり、近隣の既存施設と十分協議を行いながら計画を進め、2024年開業予定である。こうした大規模事業について、地方創生は、行政・民間連携することですまくいく、いろいろなものが動き出すと考えている。また、コミュニケーションの取り方も大事であるとの話が印象的であった。
- (2) 田上長崎市長の主報告では、先進地のまちづくりの取り組みを調査・研究し、地元に戻って、地元の価値・魅力はあると思っ  
て取り組むことが大切との話があった。「価値」に気づく、「価値」を磨く、「価値」を生み出すこと、それには、「価値」に気づくために交流は欠かせない。(古い人⇄新しい人等)
- (3) 田中氏の報告においては、人口は減る・少ないことを前提に考えること。関係人口が生まれる新しいインフラ整備。関係案内所や必要な機能として、関係案内人を中心としたコミュニティーや最低限のインターネット環境等。また、時代は変わった。コロナ禍を経験し、都市の若者等、つながりが欲しい、地域と関わりたい。これを活かすか活かさないかは地域次第とのこと。
  - ・それぞれ知恵を出し合い、産官学のみならず、地域も連携し対応していくこと、人づくりが大切であることがその後に繋がっていくことを学んだ。
  - ・焦ってはいけない、じっくり時間をかけるもの、そうでないものを選別する。
  - ・行政の公平は本当に公平となっているか。一部の人たちの公平になっていないか。地域の方々と意識の共有が必要である。

以上

